



移情閣だより

発行 移情閣(孫文記念館)友の会
編集 「移情閣だより」編集委員
発行日 2019年8月
No.119

二つの周年を迎えて

神戸中華同文学校名誉理事長
移情閣友の会会長 林 同福

神戸中華同文学校は本年5月、創立120周年を迎えました。本校は1899年清朝改革派のリーダーの一人、梁啓超が異国にあっても民族教育の重要性、祖国の言葉や文化を子孫に伝える必要性を説き、学校建設を呼び掛けました。呼び掛けに応えた神戸華僑は、直ちに募金活動を開始し、翌年には校舎が落成、初代校長に犬養毅先生を迎えて、本校の前身である中華学校が創立され現在に至っています。卒業生は6千数百名に達し、日本国内のみならず祖国や世界各地において様々な分野で活躍されておられます。これも中日各界各層の皆さんの物心両面にわたるご指導とご支援の賜物と感謝しています。

さて、私たち移情閣友の会の活動の拠点、孫文記念館は1911年華僑の豪商呉錦堂の別邸として築かれました、1915年には八角型の楼閣が増築され、それぞれの窓から見る風景に風情があるところから「移情閣」と名付けられました。1960年代に入り華僑14名を代表とし、所有権が移転され、改修を加え華僑社会の迎賓館として、会議場として、又、憩いの場とされてきました。その後1983年日中国交正常化10周年、兵庫県広東省友好提携樹立を記念し、華僑から兵庫県に寄贈され、兵庫県はこれを全面改修して孫文記念館として一般公開するこ

とになりました。一方、開館にあたり、近隣の人々が集まって組織されたのが「移情閣友の会」です。友の会は記念館開館の際、オープニング行事の運営に携わっただけでなく、開館後も様々な文化活動や、同好会活動を通じて会員間の親睦を深め合い、又、公開講座やまつり等を通じて広く市民や地域の皆さんの参加を呼び掛け、移情閣の存在を広く内外に広め、一般の人々が孫文を知り、中国文化に親しむ場を提供してきました。

移情閣友の会は今年12月に設立35周年を迎えます。今後の抱負として次の4点を掲げたいと思います。①会員の増強②親睦活動の充実③会員のニーズの把握④会計の安定、です。会員が増えれば親睦活動や同好会活動も充実していきます。又、社会環境の変化、会員の高齢化も進む中で会員のニーズにふさわしい行事や事業も検討していく必要があるかと思えます。そして会費に関しても今のままでいいのか、節約の余地がないのか、収入増の方策はないのか等、検討していきたいと思えます。

12月15日(日)には舞子ピラで設立35周年祝賀会を開催します。移情閣友の会の諸活動が皆さんにとって有益な場となるよう、友好を育くむ場となるよう、努力していきたいと考えています。今後とも宜しくお願いします。

移情閣(孫文記念館)友の会35周年に思う

企画運営委員長 後藤 みなみ

思い起こせば10年前、私は友の会25周年記念式典での玉岡かおるさんの講演を聞きに行ったことがご縁で友の会に入会しました。2012年、企画運営委員会に招かれ、それ以来、友の会の企画運営に関わってきました。当時会員数は230名程度でしたが、今は280名を超える大所帯に。運営は途中で記念館から友の会の自主運営に変わり、混乱の局面もありましたが、孫文記念館、神戸華僑など関係機関との連携を強化し、友の会で楽しく活動してまいりました。会員の口コミ、また、色々なボランティア活動でお声かけをしていくうち、会員数は少しずつ増加してきました。ひとえにみ

なさまのご理解とご協力の賜り物だと心から感謝しています。

昨年「国際交流フェスタ2018in舞子公園」などの新規事業を開催。35周年となる今年は4月に二度目の台湾国父紀念館などへの交流の旅を実施し34名の参加を得て、成功裏に終えることができました。今年もイベントが盛りだくさん。中国文化と音楽を通して、会員の親睦と地域との交流を深めていきたいと思っています。ふるってご参加ください。お待ちしております。今後も会員が楽しく学び合い、それぞれの得意を生かす活動ができますよう、企画運営していきます。どうぞ宜しくお願いいたします。

〈目次〉

P1…二つの周年を迎えて
友の会35周年を記念して

P2…友の会2019総会報告

P3…移情閣友の会35周年記念の年を迎えて／着任挨拶

P4………行事報告

P5～7…台湾交流の旅特集

P8～11…交流広場

P12………今後の予定